

(小寺裕雄衆議院議員挨拶)

皆さん、こんにちは。

ご紹介をいただきました第4選挙区衆議院議員・小寺裕雄でございます。

本日この県連大会、限られた中ではありますが、こうして各地域、各支部からご参集賜りました。私からも厚く御礼を申し上げます。

また、私の様々な活動に対してご指導、ご鞭撻賜っておりますことに高席からではございますが重ねて御礼を申し上げます。

本当に日々ありがとうございます。

さて初当選をさせて頂いてから、ほぼ丸4年を迎えました。

当選をさせて頂いた時には、こうして4年間衆議院議員を勤めることになるとは全く考えておりませんでした。本当に月日は経つのが早いもので本日4回目の県連大会を迎えることができました。

4年前の平成29年10月22日は市議会議員選挙と重なっており、私の選挙区では、私の地元の東近江市、それから湖南市と甲賀市で同日選挙が行われました。選挙がこの秋には行われることは確実なので、かなりの確率で、また今日お集りの議員の皆様方と同じ日に選挙しなければならないのかなといったことを考えています。

さて、この4年間を簡単に振り返らせて頂きますと、私は地方議員時代から農業分野と地域課題の解決を主要テーマに活動してまいりました。

初当選の時を振り返りますと、当時は滋賀県が進めている環境こだわり米、国の政策では環境保全型農業と申し上げますが、この滋賀県独自の取組みが国の制度から外されるのではないかとということがありました。

これが外されますと滋賀県は独自に毎年約3億円の予算を一般財源から計上しなければならないということで当時は大変困っていました。

その後、色々な方々のお力を得て、ほぼほぼ現在では県からの持ち出しが全くない状況で制度を維持することができました。

これに取り組めたことが、私にとって国政に参画をさせて頂いて「やればできる」と実感した最初の出来事でした。

また翌年には大きな台風で農業被害が各地で出ましたが、国の制度を活用させて頂きながら、農家の皆様が農業を断念することなく継続して

頂けるように尽力させて頂くこともできました。お役に立てたことを率直に喜んでいます。

このコロナ禍においては、様々な課題が農業分野でも出ています。

特にお米は業務用米の需要が減少したことにより去年は沢山のお米が余っています。

実は JA さんの倉庫に約20万トンものお米を一旦入れさせていただいて、価格を何とか維持しながら販売処理をしているところです。

コロナの影響が本年にまで及びましたので、この秋にとれるお米の取れ高がどういう形になるかによって、価格の暴落も予想されています。

6月末までに転作の締め切りを迎えて、約6万4千トン余りを主食用米から飼料用米への転換ということで進めさせて頂いてます。

滋賀県は制度にのっていただいて十分対応をしていただいたわけですが、全国的にどうなるかという問題がありますので注視しながら、しっかりと農家の皆様方が秋の豊作を喜べるよう尽力してまいりたいと考えています。

また、地域の課題としては何よりも私にとりましては、名神・名阪連絡道路の整備に道筋をつけることが大きな課題となっています。

当初の予算よりも今では約10倍余りの予算を計上することができました。

現在は、どの辺りのルートを通るか、こういった道路を果たして作ればいいのか、費用負担は誰がするのかといったことの検討が進められています。

期成同盟会で7月15日には東京で大きな大会を開かせて頂き、三重県、滋賀県両県知事もご出席いただいて華々しく花火をあげさせていただくことによって、この事業の加速化に一層取り組んでまいりたいと考えています。

河川整備では、日野川にもたくさんの予算をつけていただくことができました。

ようやく1番懸案の弓削地先でどのような河川整備をするのかといったことが今年検討を進められおり、これも決めていただけたら順調に進めることができるのではないかなと考えています。

その外にも大戸川ダムの話も先程ございましたが、おそらくこれから

約10年余り、本体工事が完成するまで時間がかかると思います。

一部から反対の声もあるとお聞きしていますが、これはダムだけに頼るのではなく、淀川下流の河川の拡幅や、いわゆる堤防の強化、今年完成する天ヶ瀬ダムの再開発、あるいは来年完成する三重県の川上ダムも併せて一体となって淀川の整備を進めることで、できるだけ瀬田川洗堰の全閉操作を無くすことが、直接的な大戸川流域沿川の皆様方の治水安全度を高めるとともに、私の地域でもあります近江八幡や能登川、また草津やそれぞれの琵琶湖岸の農業被害や住民の皆様方の安心に繋がるようになればという思いで、これからもしっかりと取り組みを進めたいと考えています。

色々お話させていただきましたが、この秋の選挙を乗り越えなければ、私自身が直接お手伝いすることは叶いません。

今回の選挙は平成21年に自由民主党が下野した時以来、厳しい逆風が吹いているものと思います。

私の選挙区含め、県内では統一候補との戦いといったことで本当に雌雄を決する戦いになろうと思います。

私自身のことを振り返りましても、前回私が皆様方からいただいた票よりも相手側の票と共産党の票を合わせれば数で負けているということは明らかです。

そのことを認識しながら残された日、精一杯活動を進めてまいりたいと考えています。

しかしながら選挙は私だけでできるものではありません。

本日お集りの皆様のご支援無くして私の当選はあり得ないと認識しています。また、そのことを肝に銘じてこれから精一杯取組みを進めてまいりたいと考えています。

どうか今お話しさせていただいたことのご趣旨をご理解いただいて、来たる総選挙の必勝に向けて努力してまいります。

皆様方のご支持、ご支援賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私からの報告とあわせてお願いのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。